



平成21年 南島原市表彰式

10月18日、ありえコレジヨホールで、徳行や地方自治功労など市政の各分野で優れ、功績のあつた56人の表彰がありました。

式典では、受賞者を代表して民生委員・児童委員を15年務め、社会福祉功労を受けた山下康昭さんが「誠に光栄です。これまで社会の役に立つよう努力してきましたが、これも先輩や市民皆さまのおかげです。受章を励みに、これからもがんばりたいと思います」とお礼の言葉を述べました。受賞者の皆さん、本当におめでとうございました。

**徳行**  
徳行卓越し、他の模範となるもの  
東 西望(長崎市)  
福田 末好(加津佐町)

**地方自治功労**  
地方自治の振興に貢献し、その功績顕著なもの  
草柳 寛衛(布津町)  
吉岡 巖(布津町)  
小嶋 光明(布津町)  
鳥居 純毅(有家町)  
林田 安人(有家町)  
本多 重元(西有家町)  
小川 清剛(西有家町)  
飛永 一義(北有馬町)  
久間 省吾(加津佐町)



社会福祉功労を受けた山下康昭さん

**地方自治・納税功労**  
地方自治の振興及び納税に貢献し、その功績顕著なもの  
金子 輝利(西有家町)  
中村 鉄則(西有家町)  
伊藤 龍雄(西有家町)  
佐藤 松枝(西有家町)  
草野 弘人(加津佐町)

**社会福祉功労**  
民生の安定に貢献し、その功績顕著なもの  
小川 絹子(深江町)  
山崎 春繁(布津町)  
松尾 清子(布津町)  
下田 壽憲(布津町)

**納税功労**  
納税に貢献し、その功績顕著なもの  
福島 巨大(深江町)  
山田 末継(布津町)  
小嶋 数利(有家町)  
大崎 功(南有馬町)  
山平 博(加津佐町)

**産業功労**  
産業の開発及び振興に貢献し、その功績顕著なもの  
大平 久人(布津町)

**交通安全・防犯・消防功労**  
交通安全、治安の維持並びに水火災等の防護及び復旧に貢献し、その功績顕著なもの  
光永 武義(有家町)  
猿渡 建(有家町)  
山口 義幸(有家町)  
本多賢一郎(有家町)  
林田 幸一(有家町)  
松岡 久光(有家町)  
田浦 昇(有家町)  
近藤 利幾(西有家町)  
酒井 満秋(加津佐町)  
山平 博(加津佐町)

**その他**  
その他特に表彰に値すると認められるもの  
(故)渡辺千尋(東京都)

特集

市が289億円で買ったもの

南島原市の決算

皆さんから納めていただいた税金や国・県からの支出金は、皆さんの生活環境をより良くするために使われています。

今回は、平成20年度一般会計の収入支出を中心に、南島原市の財政について特集します。



使ったお金「289億円」を考える

「289億円」と聞いてもちょっと想像がつかみませんが、ここでは、小型乗用車を使ってどのくらいの額か考えてみましょう。

まずは、150万円の小型乗用車を19.248台分。6メートル間隔で並べていくと115キロメートルにおよびます。実際の高速道路に置き換えると諫早のインターチェンジから鳥栖ジャンクションを通り過ぎるほどの大渋滞。289億円とは、そのくらいたくさんのお金を買

うことができる金額なのです。そんな大きなお金で、南島原市が「買ったもの」とは、一体何だったのでしょうか。



「289億円」は150万円の車に換算すると19,248台分。諫早IC～鳥栖JCTを通りすぎるほどの長さになります。

総務部長に聞く 南島原市の決算



南島原市の決算、財政について、財政の所管部長である総務部長に話を聞きました。

南島原市の20年度決算について、簡単に教えてください

一般会計の決算は、歳入歳出差し引きは黒字であり、純粋な剰余金も昨年度とほとんど変わらない、安定した財政状況といえます。しかしながら、一方では経常収支比率などの財政指標は、依然として厳しい状況です。今回の決算の特徴として、地方交付税が前年度に比べて約9億円増加したため、基金の取り崩しが大幅に少なくなったことがあげられます。また、20年度は、原油高騰、原材料価格の高騰による地域経済の悪化が深まったこともあり、景気回復優先の施策を追加して行いました。

その景気対策が、決算額として見えていないようですが

20年度に追加予算措置をした地域経済対策関連経費は、そのほとんどを21年度に繰り越したため、結果として決算額への影響はあまりありません。しかし、21年度は、繰り越した事業と併せて新規事業を実施しており、現在は、地域経済への効果を見守っている状況です。

経費削減への取り組みについて、教えてください

過去2年間の予算は、シーリングという手法で経費削減を行っています。これは事業の優先順位を明確にするもので、緊急性・重要性の高い事業を積極的に取り組む半面、優先順位の低いものは事業を縮小・廃止しました。この結果、前年度に対して20年度は10%の削減を達成したほか、21年度はさらに5%削減を予定しています。

南島原市からの財政の見通しをどのように考えていますか

合併し、行財政改革を推進する中で、事務の効率化や職員の削減など、全庁をあげて支出の抑制に取り組んでいるところです。しかし、それ以上に、支出面では高齢化に伴う経常経費(扶助費など)の増加、収入面では、人口減などで税収増を望みにくい現状に加え、毎年三十数億円受けている合併による交付税の優遇措置の段階的な減額を28年度に控えていることから、財政的には予断を許さない状況です(32年度に優遇措置は終了)。

このようなことから、長期的な視点で計画を策定し、財政運営を行う必要があると考えています。なぜなら、私たちは現在だけでなく、未来の私たち、さらにはその子どもたちに対しても、責任があるのですから。